

もみじ

—広島県山岳・スポーツクライミング連盟会報—



一般社団法人 広島県山岳・スポーツクライミング連盟

〒733-0011 広島市西区横川町 2 丁目 4-17

電話・FAX (082) 296-5597

E-Mail: hgakuren@lime.ocn.ne.jp

URL: <http://hiroshima-gakuren.or.jp>

郵便振替口座 01380-6-37958

題字デザイン 今村みずほ

編集 西部伸也

本号内容

1. クライミングスクール (4/14 天応烏帽子岩山) 報告
2. トレッキングスクール (4/21 行者山～傘山) 報告
3. 県民ハイキング (4/7 日浦山) 報告
4. 個人会員ありんこチーム活動 (4/6 倉橋・お大師道コース) 報告
5. 岳連短信 (寄贈御礼、5～6 月の行事予定)

1. クライミングスクール報告

(指導部長 森本 覚)

第 1 回 4/14(日)

山城：天応烏帽子岩山

人数：23 名 (スタッフ含)

マイナースラブに 3ヶ所と第 1 ポプュラー、凹角でトップロープクライミングとビレイの講習をおこないました。ラッペルは緩斜面で練習をした後に、展望台に登りメインロープを使用してクローブヒッチでセルフビレイをとり、下降する講習をおこないました。(指導部 塩田 徹)

【感想文】

(受講生 竹井 義徳)

知識も技術もゼロの状態に参加したクライミングスクールは、終始、緊張とワクワクの連続でした。エイトノットの結び方もよく分からず、スタッフの皆さんやペアを組んで頂いた、先輩受講生の方から丁寧に教えていただきながらのスクールでした。

まず、最初に、ビレイの方法を覚えてくださいとの事で、スタッフの方がビレイの方法を実演してく

ださいました。岩に登るスタッフの方のスピードに合わせて、見事な手さばきで、スルスルとロープを出される光景を見て、流石だな～と感心していました。

実演が終わった後は、各班に分かれての実践です。初めてのクライミングでどこを登っていいのか分からない中無我夢中で登りました。ロープで確保されているとは分かっていても落ちるのではないかと思ってしまう手にジツリと汗をかいて滑りそうになりました。

スタッフの方からお借りしたチョークを手につけて登り進めていき、終了点まで行きました。終了点から見た景色は、とても眺めが良かったです。

2 本目に登った岩では、核心部の手前で、ギブアップしてしまいました。自分の体力の無さに情けない気持ちでした。

クライミングの後は、懸垂下降やロープワークの練習を行いました。丁寧に教えて頂きながらですが、自分が何をやっているのか良くわからないまま付いていくのがやっとでした。

こうして、クライミングスクール第 1 回目は怪我や事故もなく無事に終えることが出来ました。これも、スタッフの皆さんが安全に注意しながら講習を行ってくれたお陰だと思います。スタッフの皆様、ありがとうございます。

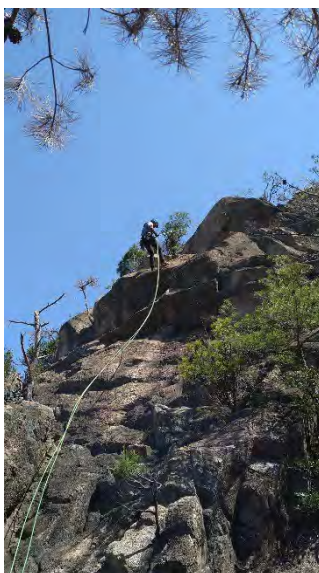
自分がクライミングスクールに入ろうと思った理由は、クライミング技術や、ロープワークを知っていれば、今後の登山にきっと役立つと思ったからです。スクールが終わるころ自分がどのように成長しているか楽しみです。

(受講生 岩本 有司)

4月14日(日)、天応での第1回クライミングスクールに参加しました。天気は快晴で絶好の登山日和。麓から小一時間登ると、今回の練習会場である大迫力のナメラ岩が現れ、一気に緊張感が高まりました。ここで受講者は3グループに分かれて各担当スタッフの方々から指導を受けました。まず、私のグループはビレイ練習のため、凹角と第一ポピュラーにスタッフの方々が準備して下さったトップロープでクライミングを行いました。岩を登っていくと、当たり前ですが次第に高度感が出てきて、自分が居る場所の高さを意識すると脚が震えてきました。何度か脚を滑らせたのですが、ビレイヤーの方がテンションを掛けて止めて下さったので、少しずつ恐怖感が薄れてきました。ビレイヤーの声かけや確実な動作がクライマーの安心感につながることを身をもって実感しました。

この後は、ビレイデバイスを使ったラッペルの練習や、メインロープを使ったセルフビレイのロープワーク、トップロープでビレイヤーとクライマーの反復練習を行いました。スタッフの方々の手本が鮮やかで、教えて頂いた動作を見様見真似で同じようにやろうと思っても、何かが少し違うような気が。焦って手元がもたついたり、左右が逆になったり、順番が違ったり…。学ぶことが多く、あっという間に時間が過ぎてしまった感があります。スタッフの方々に教えて頂いた一つ一つの動作を定着させるために、次回までにしっかりと復習しておきたいと思っています。

(写真提供 塩田)



2. トレッキングスクール報告

(指導部長 森本 寛)

第1回 4/21(日)

山城：行者山～傘山

人数：13名 (スタッフ含)

4/4(木)三篠公民館にて第1回目の机上講習をおこない、地図の準備とコンパスの利用法を講習しました。4/21(日)第1回目の実技講習で傘山に行きました。歩行技術、読図の講習をしながら行動し、憩いの森にてテント泊装備の講習をおこないました。(森本)

【感想文】

(受講生 山田 仁美)

トレッキングスクール開講より初めての实地講習へ行ってきました。初回の目的は読図・装備の基本を

学び、まずは 10km を歩くという山行です。まだ見慣れないメンバーとの対面にドキドキしながら現地に集まりましたが、1・2・3・4・・・と点呼をしていると急速に集団意識が芽生えます。

コンパスの基本の使い方は、事前に机上講習で習っていました。しかし、詳しい使い方はすっかり頭から抜け落ちており、現地で一から学ぶ有様です。磁北線との合わせかたや、地図の方位を間違えないように確認したりと、言われたことをやっているようで、コンパスでなく体が動いてしまったり・・・都度サポートの皆様にご教を請い、じっくり身につけていきます。

また、ある程度歩くと地図上で現在地を特定するのですが、あいにくの雨模様のため、周囲はガスで視界不良。目立ってヒントになるものは送電線や鉄塔くらいしかありません。歩いてきた地形と、トラバースしたか、また小さいピークなのか？といった地形から推察するため、眺望が望めない分より地形を意識しなくてはならず、好天だった場合よりも実践的な講習になっていたのかもしれない。

また歩き方では、登山靴歩行の基本から教わります。解けにくい靴紐の結び方、グリップが前後に効くようできているためフラットフットイングが基本で、斜面などに対して足の向きを斜めにしないことが大切です。そして、下りでバテないように分散して力を使い、大腿前面の筋力を残しておくというのが勉強になりました。登りではハムストリングを有効に使うため、臀部～大腿後面を意識して伸び上がるよう歩くこと。そしてふくらはぎも使いすぎないように、アキレス腱が伸び切らないときはガニ股でフラットフットイングする、または横歩きで蛇行するなど対策をとると良いとのことでした。足元の岩や落ち葉、木の根などが濡れ、ザレ場は特に滑りやすかったですが、ご指導のおかげでメンバー全員怪我に繋がる転倒・滑落などなく 10km を歩き切ることができました。

最後にテントや装備の実物を見ながら、今後テント泊に必要な装備について講習がありました。かねてからの疑問や相談ができ、テント泊山行に思いを

巡らせていた想像が、より具体的になってきました。その想像がしっかり実現できるよう、今回学んだことを次の山行でも活かしてスキルアップしていきたいです。

(写真提供 高田 正剛)





3. 県民ハイキング報告

(理事長 豊田 和司)

4/7 日浦山での県民ハイキングの感想と歴史解説です。

『桜花爛漫、眺めよし、歴史深堀解説つき!!!

県民ハイキングっていいね!!!』

(公益社団法人 日本山岳会広島支部 清中 智子)

1 週間前から天気図や天気予報とにらめっこ。降水確率が高い。天気が読みにくい…不安な日々を過ごしたが、日曜日が近づくとつれ、降水確率がどんどん低くなってきた。そして迎えた4月7日当日、これ以上ない理想的であたたかなお天気に恵まれ、いざ海田市駅へ。今日の日浦山(345.9m)ははじめて歩く里山だ。私の所属する日本山岳会広島支部が本日の県民ハイキングの担当。スタッフとしての参加。総勢 32 名、広島県山岳・スポーツクライミング連盟主催の第 62 回の県民ハイキングがはじまった。

当日は B コースから日浦山の山頂へ、下山は D ルートから海田町の歴史的資料を展示している「ふるさと館」へ下山するコース。3 つのグループに分かれ、私は 2 班の担当だった。まずは海田市駅から天保十一年(1804 年)開創の大師寺に向かう。大師寺までの参道は長い階段。どこまで続くのか、階段は苦手だ。はや微妙に息切れしてきたころ、大師寺の境内に 9 時 50 分到着。主催者のご挨拶の後、大師寺の由来などをお聞きし、軽くストレッチをして、10 時 10 分過ぎスタートした。ゆるやかなペースで再び階段を登っていく。

山頂までに日の浦山四国八十八ヵ所の石仏が安置され、山全体が信仰の霊場として一般に開放されているようだ。ウグイスのさえずりを BGM に、両脇に並ぶ石仏に見守られながら登る道で有難い気分になった。途中休憩を取りながら、頂上を目指す。汗ばむこともなく、おだやかな日差し、時に眺望が楽しめ、快適な山歩きだ。11 時 30 分に山頂着。山頂からの眺めは絶景だった。眼下に広がる海田の町、遠く広島湾に浮かぶ島々も見渡せる素晴らしいビュースポットだ。そんな景色を眺めながらのさわやかな気分で持参したおにぎりをいただいた。

12 時 15 分、日浦山山頂で今日のメインイベント!!! 楽しみにしていた海田町の歴史の講義、講師は鍵本文吾さん。実は鍵本さん、私が社会に出たころ、RCC で当時はディレクターを務めておられ、ラジオ番組の収録でお世話になった方だった。約 40 年ぶり? の懐かしい再会にうれしくなった。海田町の歴史は非常に興味深いものだった。そんな古くからの歴史がこの町にあったなんて全く知らなかった。わくわくしながらお話をうかがった。

12 時 45 分に下山開始、13 時 30 分、全員無事下山。スタッフとして少し気が張っていたのか、下山したとたん、足腰の疲労を感じたのは内緒の話かな。今回、はじめての県民ハイキング、とても楽しい一日だった。桜花爛漫、あたたかな日差し、さわやかな風、山頂からの眺めは素晴らしく、何より歴史講義までついてる、ちょっと贅沢な里山歩きだった。こんな山歩きがあるのなら、また参加したい。人にもおすすめしたい。と心より感じた。主催者、参加者、スタッフの皆さまに感謝申し上げます。

『南北朝 日浦山城合戦』

(鍵本 文吾)

・日浦山城合戦(ひのうらやまじょうかつせん: 1338 年 3 月 17 日~3 月 20 日): 安芸国守護、武田信武に率いられた北朝方の国人武士は、足利尊氏支援のため京都防衛に出陣中。その虚を突いて、石見国から南朝方の軍勢数万(安芸国大将に万里小路源少将継平、備後国大将に吉田右衛門権亮高冬

を頂く、福屋弥太郎左衛門尉兼景と増賀法眼が指揮を執った) が南下し、1338年3月15日に交通の要衝、開田荘(南北朝期から海田と標記)の日浦山に城郭を構えて立てこもった。日浦山城のある日浦山は標高354.4m。海田湾を望み、瀬戸内を行き交う船の監視には絶好の場所。また、山裾には山陽道が通り人の往来も盛んで、船運などによる物資の集散場所で、市が定期的にかかれた二日市を瀬野川対岸(左岸)に抱えている。南朝方の南下を聞いた北朝方は、守護代福島左衛門四郎入道に招集され、海田湾に至るまでに阻止しようとしたが破れている。北朝方は体制を立て直し、3月17日から、日浦山城攻めを開始した。安芸国の留守部隊の全力を挙げたものと思われるが、記録に残るのは、地頭の三戸頼覚、周防親経、親重父子、それから吉川実経の代官のみとのこと(海田町史)。3月20日、落城し南朝方は離散してしまった。

- ・南朝方の目的：交通の要衝、開田荘を抑えることによって、海路または陸路で、京都奪回戦を畿内で展開している、南朝方主力(北畠頭家の軍勢)と合体する為か。
- ・日浦山城：南朝方が入るまでに、既に城郭が築かれていたものと思われる。藝藩通史には開田荘の隣り世能荒山荘の地頭、阿曾沼豊後隆郷が築いたとある。阿曾沼氏は下野国安蘇郡阿曾沼(現栃木県佐野市)が本貫。承久の変(1221年)の戦功で、世能荒山荘の地頭となった。居城は鳥籠山(このやま)城。
- ・開田荘：平安末期に名前がでる。八条院(鳥羽天皇の日章〔日偏に章〕子内親王、初めて后位を経ずに女院となった。以仁王の養母。)領の荘園の一つ。広大な八条院領は南朝方の重要な経済的基盤となった。後、南朝方の北畠親房が、1352年4月1日付けで、高野山の蓮華乗院に戦死した息子の頭家の供養のためこの荘園の地頭職を寄進している。その寄進状にはじめて「海田荘」と記された。
- ・南北朝(1337~1392)：1333年鎌倉幕府を倒し、後醍醐天皇は建武の新政を始めたが、程なく崩壊し

1337年、足利尊氏は京都で光明天皇を擁立。吉野に逃げた後醍醐天皇方と足利方がそれぞれ天皇を立て、京都の北朝、吉野の南朝と以降55年間両朝が並立した。1392年、南朝第4代の後亀山天皇が北朝第6代の後小松天皇に譲位する形で両朝が合一した。戦乱の様子は、軍記物「太平記」となった。

- ・北朝：光厳—光明—崇光—後光厳—後円融—後小松
- ・南朝：後醍醐—後村—長慶—後亀山

(写真提供 西部)



大師堂で開会式



日浦山山頂で歴史解説



山頂にて記念写真



下山地の海田ふるさと館前の満開の桜

倉橋、桂ヶ浜温泉館前に集合、8時15分スタート。道沿いの石仏の札番号（逆打ち）を確認しながら、ミツバツツジや海の景色に「わ～綺麗だね」と声を上げながら賑やかに登っていきます。

標高 406mの火山ですが、0mからの直登、なかなかの登りごたえが、あります。千畳敷から直登コースで頂上へ。チョットしたロープ場をこえ、途中人面岩や、巨岩の絶景ポイントには、はしご登りで立ち寄りながら、9時30分火山山頂で記念撮影とドローンでの360度の空中撮影を楽しんで後、宇和木峠に下り、10時30分、倉橋グランド横からお大師道へ。しばらく階段を登ると、松並木に沿って石仏が安置され、所々ベンチが設置してあり、ここからは快適な稜線歩き。

11時、尾根の休憩スポットで昼食タイム。食後はロープワークの講習会。日帰り、低山に関わらず、もしもに備えてどんな山行にもロープを持参している熟練メンバー達。講習会は1時間にも及び、先輩方の山への思いに感心すると同時に本当に勉強になりました。

私自身は、岩登りはしませんが、もし足を滑らせて救助が必要な時など最低限自分自身をロープ確保出来るようにならなければと強く感じました。

12時半、王子峰で三角点を確認し、13時10分に海岸沿いの石原パス停へ下山。

せっかくなので一番札所（石原観音堂）での記念撮影と八十八番札所（白華寺）への道迷いしながら訪ねての参拝でお大師巡り終了し、帰路で立ち寄った西蓮寺の桜は満開でとても綺麗でした。14時半登山口に到着。

桂ヶ浜でコーヒータイム、岡谷さんに借りたパーコレーターで美味しいコーヒーを淹れて饅頭を食べながら楽しいお喋りして15時半現地解散しました。

【補足】(岡谷)

『チームありんこ』は、参加者の皆さんの企画で山行しております。お陰様で今回のようにいろいろな内容満載で楽しい山行になって来ました。これも皆さんの熱い思いの結晶と信じます、これらも安全な登山を目指頑張りましょう。

4. 個人会員ありんこチーム活動報告

(顧問・個人会員 岡谷 良信)

参加者の感想文と写真です。

『チームありんこ 4月山行記録』

(個人会員 林 明子)

4月6日(土曜日)ありんこ山行は「倉橋・お大師道コース」を周回しました。

瀬戸内の絶景を楽しめる火山を選択。火山・後ろ火山をピストンで往復するコースが一般的ですが、その先に倉橋八十八ヶ所お大師コースがあり、四国霊場巡りにちなんだもので、倉橋の造船が盛んだ江戸時代中期に定められた信仰の道とされます。

また4月上旬に、火山はミツバツツジロードとなります。今年は開花が遅れ5分咲でしたが、例年なら散っている桜も今回は一緒に楽しみました。



5. 岳連短信

1. 寄贈御礼

4/18 三原山の会『筆影』No. 530 (5月号)

(4/22) 広島山稜会『峠通信』778 (4月号)

5/11 福山山岳会『はいまつ』(例会山行五千回達成記念号) および別冊・会歌CD

4/19『中信高校山岳部かわらばん』739~741

2. 5~6月の行事予定

5/26(日) ハイカーの為のロープワーク講習会 (三篠公民館)

6/1(土)~2(日) 登山フェスティバル・県民ハイキング(63) (西条龍王山)

6/1(土)~2(日) 県高校総体 (県民の森・比婆山)

6/16(日) 無雪期のレスキュー研修会 (福山 蔵王山)

6/23(日) JMSCA総会

編集部より

○この会報は、皆さんの提出原稿を編集して発行しています。岳連行事・山の情報・行事参加の感想など気軽にお寄せください。寄稿の場合は所属、役職を記入下さい。編集の都合で一部手直しすることがあります。ご了承ください。

○会員団体が会報発行されたら岳連事務局まで惠送下さい。随時紹介します。

○この会報はメール配信しています。配信ご希望の方は岳連事務局までメールアドレスをお知らせ下さい。